❀2023年サクラだより　3　　2023. 2. 27

2 月 19 日のニュースで九州北部、及び四国で「春一番」が吹いたと報道されました。「春一番」とは季節が冬から春へと変わる時期に、初めて吹く暖かい南よりの強い風のことを言います。ただ、「春一番」の定義は各地域（沖縄、東北、北海道地域を除く）で異なり、近畿地方では、立春（2 月 4 日頃）～春分（3 月 20 日頃）の間に、低気圧が日本海にあって、南よりの最大風速が 8m/s 以上となり、最高気温が平年（または前日）より高くなった初めての日に、気象状況を総合的に判断して発表されています。冬型の気圧配置が緩んで春が近づいた兆しと言われています。　大阪地区では 2022 年は記録されず。2021 年に 3 月 2 日に発表されています。今年は何時「春一番」が吹くのでしょうか。

余談ですが「春一番」の語源および初出については諸説がありますが、気象庁は、石川県能登地方や三重県志摩地方以西で昔から用いられていたという例を挙げつつ、安政 6 年 2 月 13 日（1859 年 3 月 17 日）、平戸藩領壱岐郡郷ノ浦町（現・長崎県壱岐市）で、おりからの強風によって出漁中の漁船が転覆し、53 人の死者を出して以降、地元の漁師らがこの強い南風を「春一」または「春一番」と呼ぶようになったと紹介しています。

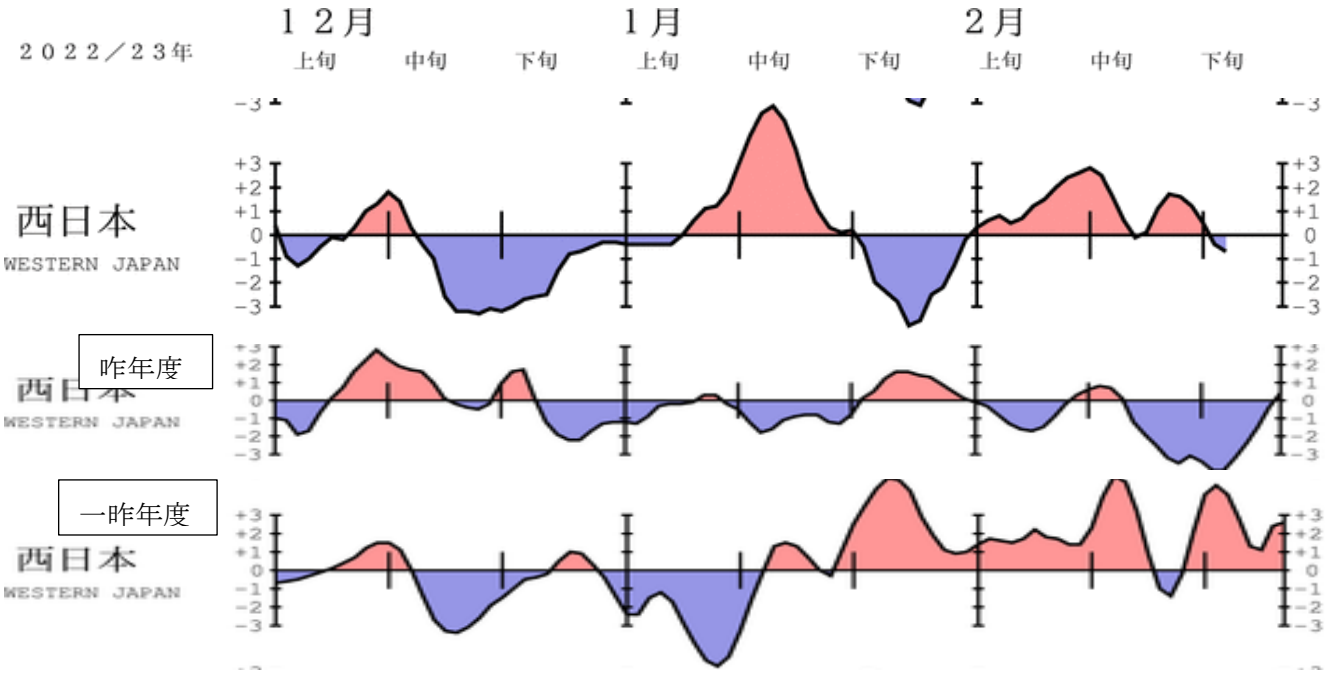
さて、本題の「**サクラだより**」、今年も科のサクラ調査が本決まり、来月からは具体的な観測も始まるので情報の交換の場として今後も続けて行く方針です。

本報でも例によってサクラの「休眠打破」等に大きく影響すると考えられる冬季の気温のこれまでの経緯・前年度との比較。気象庁が最近発表した向こう 3 ヶ月間の気象予報。及び気象会社等が発表して来ている今年の「ソメイヨシノ」の開花・満開日の最新の予想。さらに私自身が続けてきている近所歩きで観察されたサクラ類の状況等々記述しておこうと思っています。

１．今年の冬季の気温の経過。

１－１．**西日本の気温推移**（平年差・昨年・一昨年度と比較・新平年値に準拠・気象庁発表抜粋）

冬季・・12 月から最近までの西日本地区（近畿・中国・四国・九州）の気温の経緯は下図。



＊今年の冬季は上図のように寒暖の振れの幅が大きな年となって来ています。月単位で見れば平均値は平年並みとはなりそうですが、はたして「休眠打破」にはどう影響するのでしょう。

１－２．大阪・神戸・京都・豊中・枚方の冬期の気温に関して

上図とは違った見方、大阪、神戸、京都及び豊中と枚方アメダスの気象庁のデーターを使い、12 月~2 月の 3 ヶ月間の日平均気温を積算し、平年値、2020~22 年の 3 年間とも比較をしてみました。その結果は下の通りです。枚方アメダスの値が少し高いようですが、寒暖の振れは大きかったものの慣らして見れば平年並みの気温であったと言えるのではないでしょうか。積算温度で見れば昨年よりは 50℃程度高め、２０２０，２０２１年より低目の気温ですが、今年のサクラの休眠打破にどのように影響したのでしょうか。気象会社などは、この冬季気温に加え、11 月の気温も考慮しているようです。（単位は　℃　）

	大阪	神戸	京都	豊中アメダス	枚方アメダス
平年	６４７	６５１	５２４	５４２	５２９
2020 年	７８４	７９６	６８３	７０９	６７３
2021 年	７０８	７１１	５９８	５９４	５８８
2022 年	６１１	６０９	４８６	５２０	４５９
2023 年	**６４９**	**６５５**	**５２４**	**５３５**	**５４５**

１－３．近畿地区の向こう 3 ヶ月間の気象予報（気象庁・２月 21 日発表）

近畿地方（3 月～5 月）向こう 3 か月の気温は、暖かい空気に覆われやすいため高いでしょう

近畿太平洋側：気温、　平年より高くなる　　**低 20 並 30 高 50%、**

降水量，平年並み　　**少 40%、並み 30%，多 30%**

これまでの発表よりは気温が高くなると予想されています。要因としてはアリューシャン付近を中心に上空の寒気が弱いため、北・東・西日本では北からの寒気の影響を受けにくい見込みであるからとのことです。月別では

・3 月　太平洋側では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

・4 月　太平洋側では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

・5 月　天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

3 ヶ月とも、気温は平年並みか高い見込み　　**低 20 並 40 高 40%**

と発表されています。既報のように「ラニーニャ現象」は消滅し、3 月以降はこれまでの予報以上に気温は高めに推移する見込みとの発表になりました。この予報を受けて、気象会社の予想する「ソメイヨシノ」の開花日も各社とも平年並みから、早くなると改定して来ています。

２．今年の「サクラ（ソメイヨシノ）」の開花予報―３

1 月後半から、「気象予報」各社から、本年度の「ソメイヨシノ」の開花・満開の予報が出されて来ています。各社とも、これまでの気温の経緯、及び気象庁あるいは独自の今後の気温動向を見て開花日を予測し、その後に気温の経緯、今後の予想を考慮し改定版を発表して来ています。2 月 9 日に第 3 報を発表した日本気象（株）からは、2 月 24 日に第 5 報が出されて来ています。専門家は今年の「ソメイヨシノ」の開花・満開日等をどう見ているのでしょうか？参考の為、現時点の近畿各地の開花と満開の予想日を抜粋掲載しておきます。（なお、参考までに 2 月 23 日にウエザオマップ社の発表分も掲載しておきます。）

＊「近畿地方」開花は、平年並みか平年より早い（日本気象 KK）

特に 11 月の気温が高かったため、西日本を中心に休眠打破の時期が平年より遅れた見込みです。3 月は平年より高めの気温が予想されています。**西日本では平年並みか平年より早いでしょう。**

＊現時点での近畿各地の開花・満開日の予想。第 3 報より開花・満開日とも早くなっています。

大阪	**開花**	**3 月 25 日**	**満開 4 月 2 日**
京都		**3 月 23 日**	**4 月 2 日**
神戸		**3 月 26 日**	**4 月 4 日**
奈良		**3 月 25 日**	**4 月 2 日**
和歌山		**3 月 23 日**	**4 月 1 日**
彦根		**3 月 30 日**	**4 月 6 日**

❀ウエザオマップ社の開花・満開予想日の予想

近畿		
地点	開花日	満開日
彦根	3/25	4/1
京都	3/21	3/29
大阪	3/22	3/29
神戸	3/22	3/29
奈良	3/22	3/29
和歌山	3/21	3/29

＊開花日などの差は今年の休眠打破を各社がどう読むかでしょうね。

３．ヒカンザクラ

奄美沖縄地区のヒカンザクラの開花状況は前報どおりでまだ石垣島での満開日は記録されていません。開花が 2 月 3 日と平年に比べかなり遅かったのですが・・・満開に至らないかもしれませんね。

ヒカンザクラに関してはこの附近では芦屋川河岸の公園に若木 5 本ほど植栽されていますので観測の対象として来ています。過去の 3 年間の開花日は下記の通りで、過去 3 年間は 12 月 1 日より開花日までの積算温度は、下表のようにほぼ一定でした。今年のこれまでの気温に当てはめてみると、2 月の２３，4 日となるのですが、２７日に右の写真の通りで開花には至っていません。11 月の異常高温が影響したのでしょうか。

＊ヒカンザクラでは 12 月始めから開花日までの積算温度はほぼ一定でした。

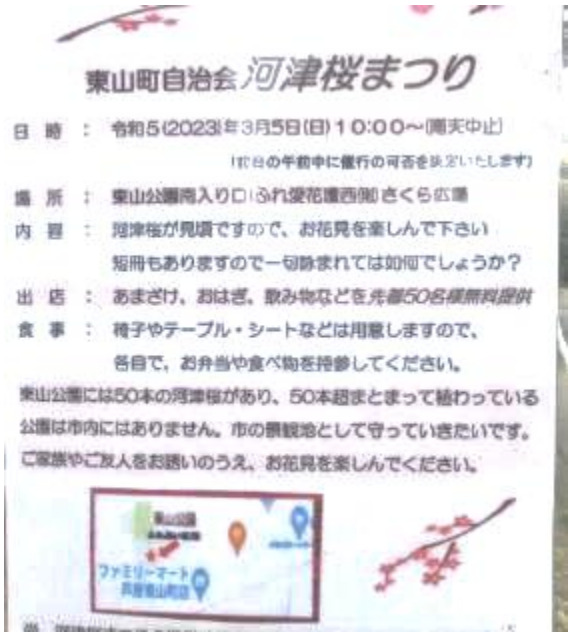
2020 年	開花日	2 月 10 日	６２３	℃・Day
2021 年		2 月 21 日	６３０	
2022 年		3 月　3 日	６３１	

４．カワズザクラ（河津桜）

前述の「ヒカンザクラ」を母種とする本種も、本州では最も早く開花する桜として知られています。原木は伊豆半島・河津町にあり、この附近が特に有名で、毎年、河津町観光課主催の「桜祭り」が開かれて来ています。本年 2023 年の「河津さくら祭り」は 3 年ぶりに行動制限のない状態で 2 月 1 日～28 日の間開催されると報じられています。既報の様に、今年は例年に比べ開花が遅れているとの情報でしたが、現在は満開、見頃とのニュースが伝えられています。この地域では、原木附近を含め、8 ヶ所の日ごとの開花状況が発表されて来ていますが、原木附近での開花は 2 月 5 日、5 分咲き 2 月 14 日、満開が 2 月 18 日と早く、他の場所では、開花が 2 月 8～11 日頃、5 分咲き 2 月 17，8 日、満開が 20～23 日で、現在は何処も”見ごろ”とのことです。何れも、成木でしょうがこの程度のバラつきはあるようです。

既報のように、この近くでは日頃の散策路圏内の芦屋市・東山公園にも町内会の人々が植栽・管理している場所がり、観察地に決め観測してきています。

＊最近この公園の町内には、右のような案内書が張り出されています。前報で 2020 年に 30 本の植えたとの立て看板を紹介しましたが、全体では 50 本ほど植えられているようです。私が開花・満開日の調査に決めている樹はこの公園内では最も早く植えられた３本？の内の一本、幹回りが５０ｃｍ、横枝が張り樹高は６ｍほどのものです。今年の開花は **2 月 25 日**、27 日には 20 輪ほどの開花が見られました。（写真）この、標準木の過去 3 年間の開花日は下記の通りであり、寒冷な冬であった昨年にくらべれば 1 週間ほど早めでした。



	開花日	満開日
2020 年	2 月 10 日	2 月 25 日
2021 年	2 月 21 日	3 月　5 日
2022 年	3 月 3 日	3 月 14 日

なお、この公園で一番早く 2 月 12 日に開花した若木は現在 1 分咲き程度。この樹と同じ公園に植えられた１７～８本（胸高の幹回りは１８～２４ｃｍ）の内、5 輪以上の花をつけていたのは 5 本程度、後はまだ開花には至っていませんでした。この若木以前に植えられたと思われる幹回り２６～３０ｃｍの樹でも、1 本は５０輪ほどの花を付け、3 本ほどが 5 輪以上の花を付け開花と単に樹齢だけの関係ではなさそうです。この公園自体は平地ではなく、過っては六甲山から張り出した尾根の一部、傾斜度も２０～３０度の急斜面にアカマツ、クスノキ、スダジイの常緑樹、コナラ、クヌギの落葉樹、いずれも１０m超える高木やハゼ、クロガネモチ、アメリカフウなどの植栽、ヤブツバキやヒサカキなどの茂る鬱蒼とした森の公園。南側の斜面の一部を伐採して低木も刈込み、この場所に若木１７，８本を植え、残りの若木は 2 ヶ所ある広場と林内に植栽されています。

南面の切り開かれた場所に植えられたサクラは良いが、林内や北斜面に植えられた個体は哀れである。開花以前に「花芽」が殆ど付いていないのである。夏季は日陰となり、十分に「花芽」をつくるだけの養分を蓄積できないのではないかと思われました。公園の今の姿、葉の展葉の様子添付しておきます。

3 月 5 日の地元の河津桜まつりに間に合えば良いのですが･･･。

・カワズザクラについては、もう 1 ヶ所芦屋市内の宮川沿いのマンションの庭の個体を観察して来ています。こちらの方は右の写真の様に、冬芽から蕾が顔をだしたという状態、開花までにはまだ 2，3 日はかかりそうです。

５．カンザクラ（寒桜・別名は元旦桜）

これまで、一般に本州で最も早く開花するサクラは上述の「カワズザクラ」であると思って来ました。勿論、これより早く開花する「アタミザクラ」があることは知っていましたが、門外不出、東宮御所、伊勢神宮等特殊な場所にしか出されていないとのことなので「河津桜」が一番としてきました。

ところが最近、高原さんから奈良・平群で、斉藤さんから京都・東山トレイルで既に開花しているサクラがあったと「写真」と共に情報を頂きました。土地の人は「元日桜」と呼んでいたとのことでしたのでこれを頼りに検索して見ました。その結果「カンザクラ（寒桜)」であることが分かりました。お二方からの写真をお借りして掲載しておきます。

標準和名では、「カンザクラ」ですが、一般には「元旦桜」と言われているようです。このサクラは早咲きで、旧暦の元旦ごろには開花するのでこのように呼称されているのでしょう。ヒカンザクラとヤマザクラ系の交雑種とされています。萼が赤紫色、花は下向きに咲くのが特徴、・花はやや小さめの一重で、直径は２．５～３．５センチほど。蕾は濃いピンク色だが花は淡いピンク色になる。５枚ある花弁は丸く、縁にいくほど濃いピンク色になるとのこと。

なお、「熱海桜」を「寒桜」ということもあるようです。

６．「ソメイヨシノ」の切り枝・加温テスト

既報のように今年も、2020 年以降続けてきている首記のテストを始めました。現在のところ、2 月 6 日に採取した枝の”芽”には全く変化が認められません。テストを開始して 20 日ほどたちますので、休眠打破されていれば、何等かの変化があるはずです。一方、2 月 11 日採取の枝の”花芽”の先が 2，3 個薄茶色に変色、芽も膨れてきたように思います。引き続き観察して行きます。

７．宿題です。

最近「ソメイヨシノ」の表皮や、切られた枝先で下記のような物を見られたことはありませんか？この樹脂状のもは何でしょうか。サクラの生き様とどう関係しているのでしょうか。

以上